

Q27：調べ学習に活用できるなど、日常的に利用しやすく魅力的な図書室を設ける場合、どのような点に留意すればよいですか？

A：教室の配置計画を全体的に見直すことにより、改修の際に図書室をどの教室からも利用しやすい学校の中心などの場所に再配置させることが考えられます。また、周囲の音を遮る小空間や畳コーナー、コンピュータの設置など、魅力的な空間として整備することも有効です。

【解説】

長寿命化改修では、大規模な計画の変更も可能です。余裕教室を集約化し大きな空間としたりすることなどにより、魅力的な図書室を整備することが可能となります。

■日常的な利用に配慮する

- ・図書室を普通教室や特別教室などから足を伸ばしやすい位置に配置することが重要です。

【事例3】

- ・子供たちが学習教材をより身近に利用できるようにするために、校内に一箇所、大きな図書室を設置する計画の他に、複数の図書コーナーを校内に分散させる計画も考えられます。【事例2, 3】
- ・各教室からの距離に配慮するだけでなく、例えば、壁を少なくして開放的にすることにより、図書室をより身近な場所に感じさせることができます。

■滞在したくなる魅力的な空間とする

- ・コンピュータ教室と関連づけたり、コンピュータを置くことで、学校の学習・メディアセンターとして計画することも考えられます。

【事例4（写真①）】

- ・様々な過ごし方ができるよう、本棚等により囲まれた場所、周囲と音を遮れる小空間、畳やカーペット敷きの座れるスペース等、図書室の中に多様なコーナーを計画することが考えられます。

【事例1, 4（写真②）】

■地域開放を想定した配置とする

- ・休日にも子供が利用できることとすることも含め、地域開放を想定し、通りに面した位置に配置することも考えられます。

【参考資料】

新たな学校施設づくりのアイデア集、文部科学省、平成22年 等

【事例1】都城市立南小学校（宮崎県）



写真：図書室内で様々な過ごし方ができるよう、畳スペースを整備。

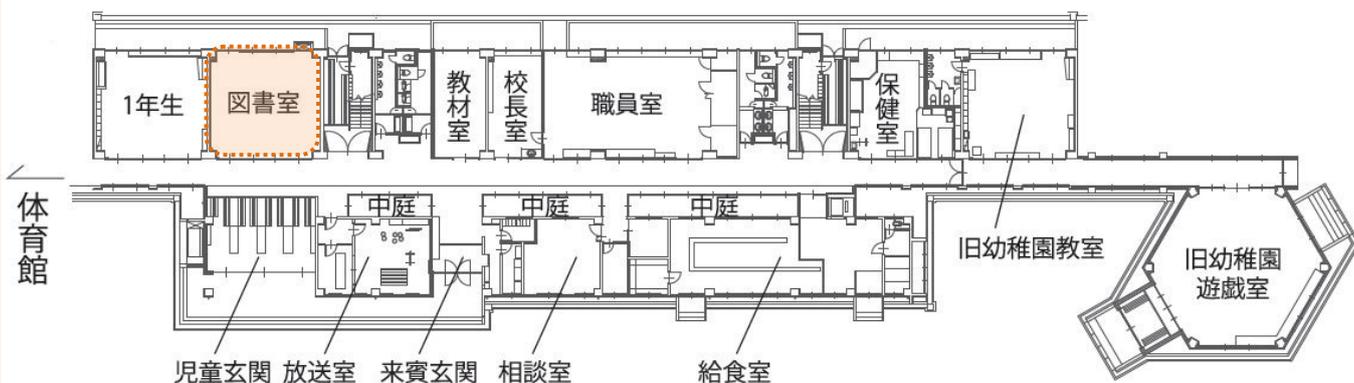
【事例2】台東区立柏葉中学校（東京都）



写真：メインの図書室に加え、各階に図書コーナーを分散配置させている。

【事例3】坂井市立鳴鹿小学校（福井県）（図書室を学校を中心に再配置）

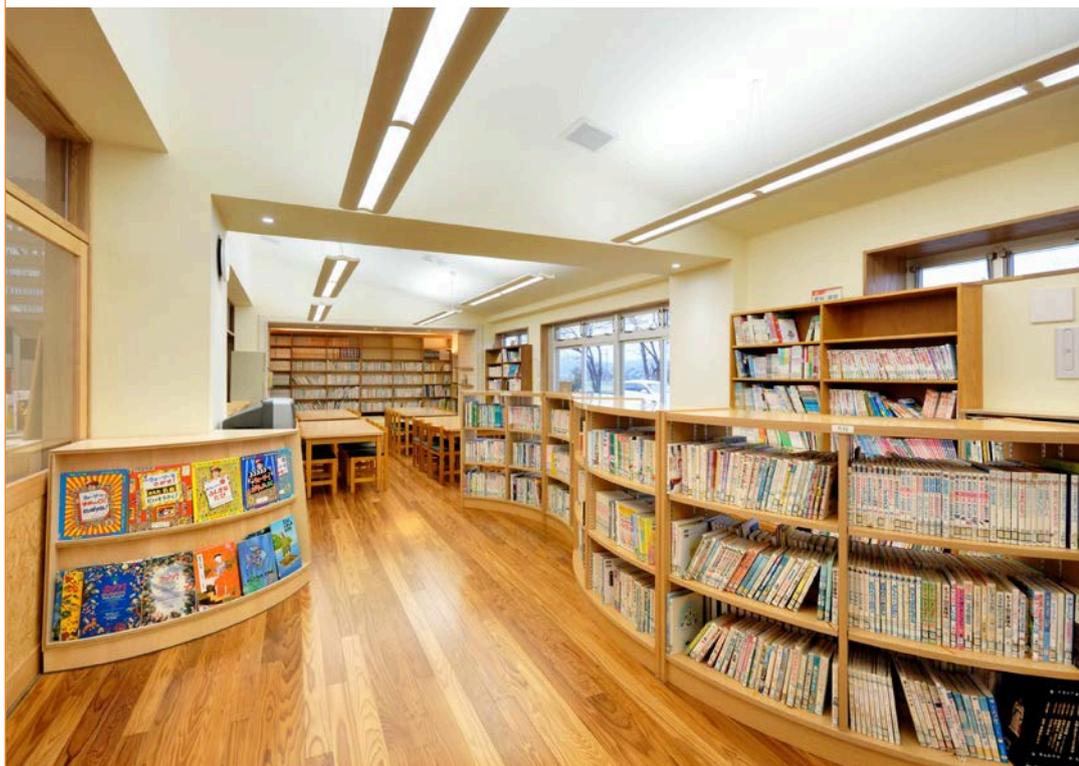
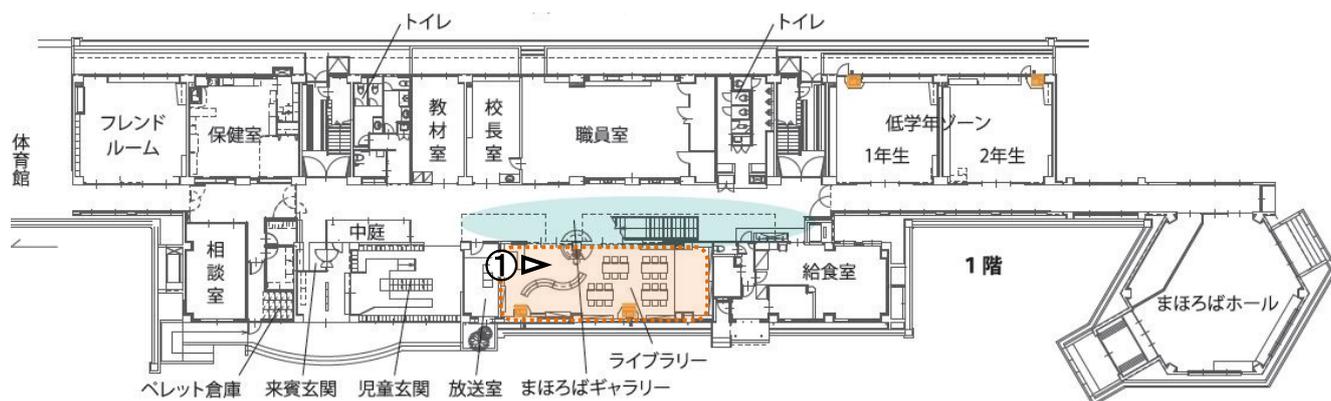
1F PLAN (BEFORE)



図書室を校舎中央に再配置



1F PLAN (AFTER)



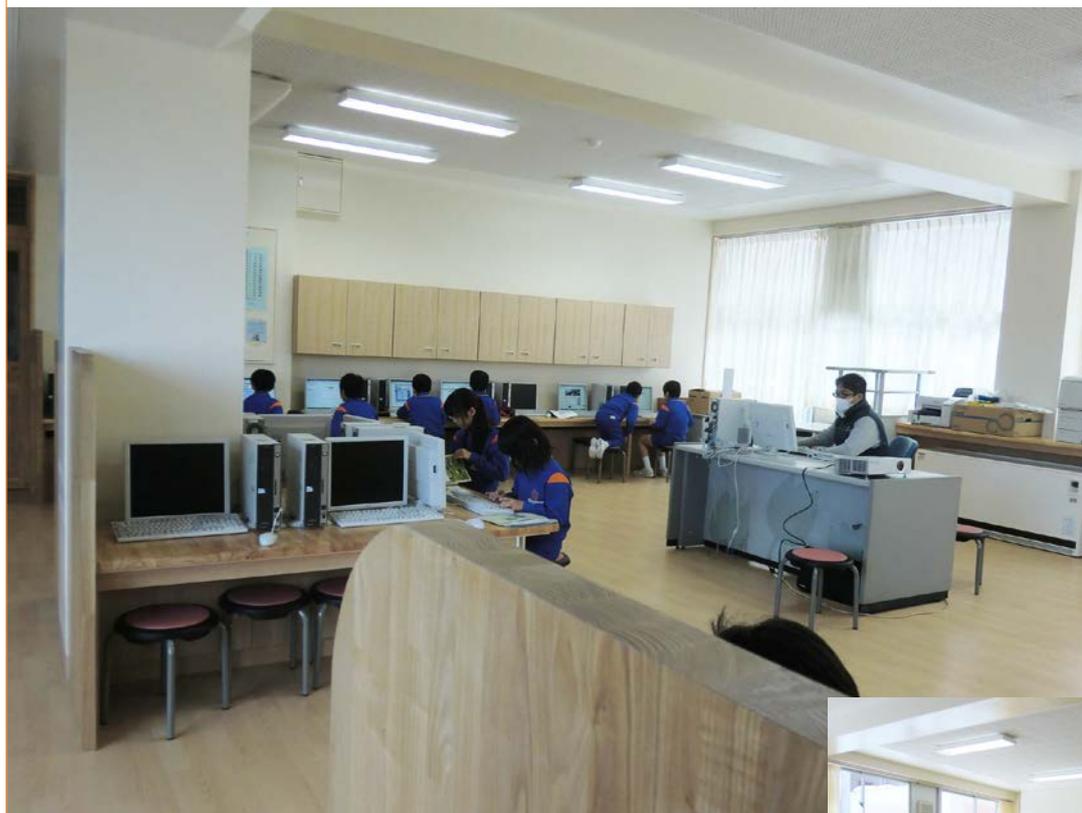
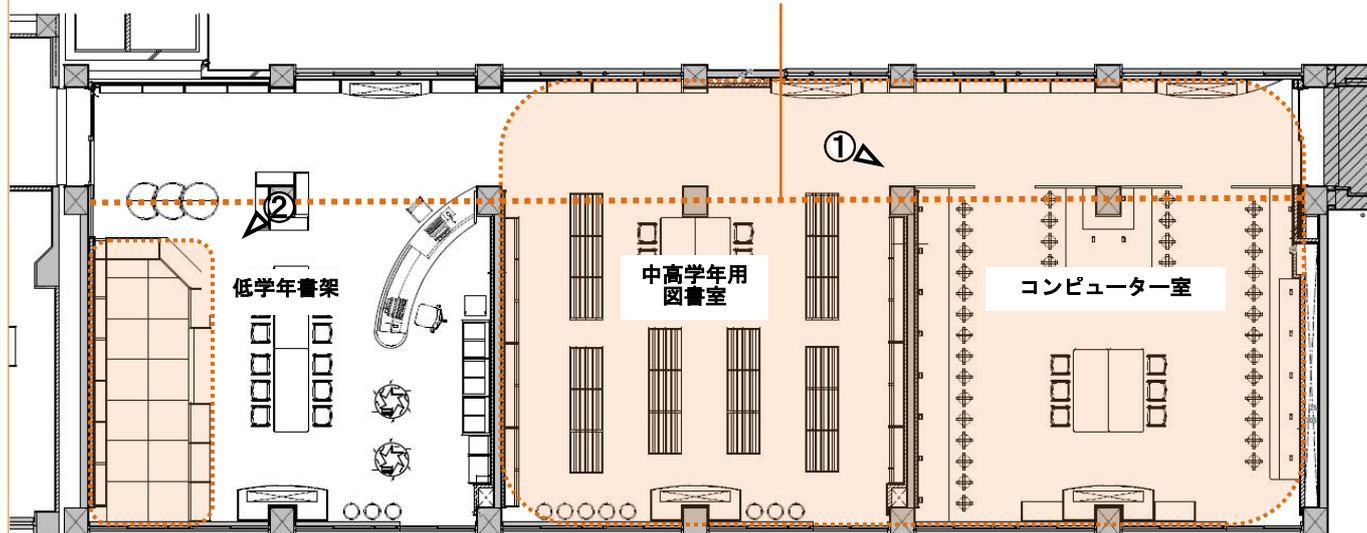
写真①：
図書室を校舎の中心に再配置してライブラリーコーナーとして整備。

【事例4】砺波市立砺波北部小学校（富山県）

（図書室・コンピュータ室を隣接させ学習・メディアセンターとして整備）

1F PLAN (AFTER)

【注】教室3室分の廊下間仕切りを撤去し、連続して使える空間を整備。



写真①：コンピュータ室と図書室を隣接させ、一体的に使用できる、学校の学習・メディアセンターを計画。



写真②：低学年の図書室内には畳スペースを整備。

Q28：教科教室型の運営を充実させる場合、施設面でどのような点に留意すればよいですか？

A：改修を契機に、教科教室型の学校施設へと変更することも考えられます。学級活動や学習以外の時間における生徒の居場所、教室間の移動などについて十分検討し、計画することが考えられます。

【解説】

教科教室型とは主に中学校において、理科、社会科、数学科等の教科ごとに必要な設備・環境を備えた教科教室を設け、各教科教室に生徒が移動して授業を受ける運営方式です。

この運営方式を採用する場合、必要な数の教科教室、教科のメディアスペースとなる多目的スペース、教科教員の作業スペースや教材室等からなる教科センターをつくり、併せてクラスの間としてホームベース等を設けます。

長寿命化改修にあわせて、余裕教室等の空きスペースも活用しながら教室を再配置し、教科教室型の運営方式にかなった配置計画とすることが可能です。

■教科センターとしてまとまりをもたせる

- ・長寿命化改修に合わせて教室の配置計画を見直し、必要数の教科教室と教科のメディアスペースとなる多目的スペースを組み合わせ、小空間や教科教員の作業スペース、教材室等を一体感のある形でまとめることが重要です。【事例1（写真①②）】
- ・その際、教科の意義を伝え、学ぶ意欲を高めるため、各教科の内容に対応した雰囲気を持つ計画（展示物の掲示等の工夫）にすることも有効です。

【事例1（写真④⑤）】

■生徒の居場所を確保する

- ・クラスへの帰属感を高め、自由時間の居場所や持ち物の収納、情報伝達等を図る場として、ホームベースやロッカースペースを立ち寄りやすい場所に設けることが考えられます。【事例1（写真③）】

- ・なお、収納については、学級の備品等の収納場所も確保することが望ましいと考えられます。

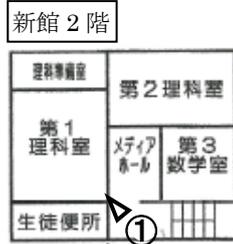
■移動に十分配慮して諸室等を配置する

- ・全校的な移動に十分対応できるよう、各教科の教室・施設群、ホームベース、ロッカースペース等の間の動線に留意した配置計画とすることが重要です。
- ・室内空間に変化を持たせることにより発見や交流が生まれるようにする工夫が考えられます。

【参考資料】

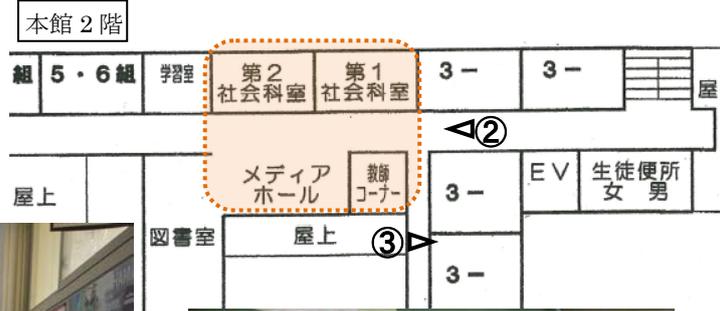
新たな学校施設づくりのアイデア集、文部科学省、平成22年 等

【事例1】横浜市立日限山中学校（神奈川県）



写真①:

理科のメディアホール。第1理科室は実験に使用し、第2理科室は講義で使用。



写真②:

余裕教室を活用しつつ、改修により教科教室型の運営方式の校舎を整備。教科教室、メディアホール、教職員のコーナーをまとまりを持たせて整備。

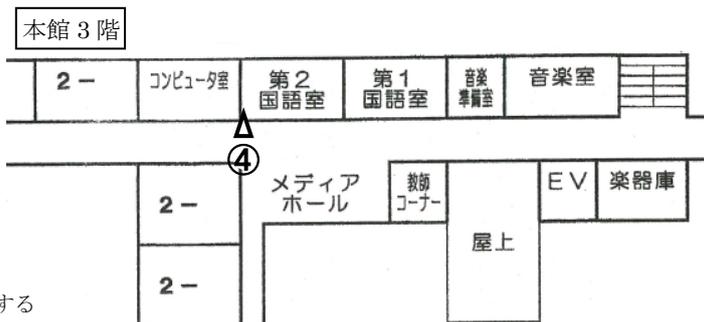


写真③: 生徒の居場所となる普通教室には持ち物を収納するロッカースペースを計画。



写真④:

国語の教科教室には、国語に関する教材を収納するロッカーを整備。



写真⑤:

英語室。室内に整備された掲示板には、教科に関連した掲示を行い、教科指導の充実を図っている。

